




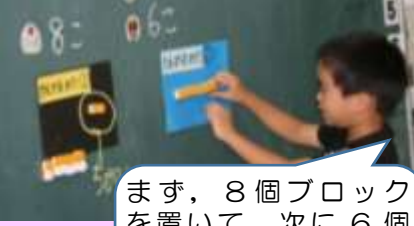


# 1 低学年の実践例から

## ① 1年生「のこりはいくつ ちがいはいくつ」【ひき算】(6/7時間)

<主張点>








- たっぴーシートにブロックの操作場所を示して自力解決の手立てとし、具体物操作が課題解決につながるような自力解決の時間を確保する。
- ブロックの動かし方を全体で発表し合うことで、ひきざんの求差の意味をとらえ、学びを深め合うことができるようにする。
- ブロックの動かし方の違いから「かずのちがいを」の求め方が理解できるようにする。

週程	学 習 の 流 れ	
つかむ	<p><b>【問題提示】</b></p>  <p>問題を図で提示し、題意を視覚的に理解できるようにした。</p> <p>どちらが、何個多いかを考えるときは、何算をすればいいのかなあ。</p>	<p><b>問題①</b> あんぱんが 3 こあります。めろんぱんが 9 こあります。どちらが なんこ おおいでしょうか。</p> <p>めあて：ブロックをつかってどんなけいさんになるのかかんがえよう。</p>
もとめる	<p><b>【自力解決：自分で考える(たっぴーシート)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学習の様子を教師が効果的に見取れるように、たっぴーシートにブロック置き場を設けて操作させた。</li> </ul> <p>ブロックを操作してじっくりと考える。</p>  <p>黄色と白のペア3つをとったら、残り6個。</p> 	 <p>「たしざん言葉」「ひきざん言葉」を教室に掲示し、考える際の手立てとした</p>
ふかめる	<p><b>【共同解決：ペアや全体で考えを出し合う】</b></p> <p>●ペア学習</p> <p>ブロックをペアにしなかったら、どう動かしたらいいのかな。</p> <p>ケーキがちがう分だけ、ブロックをとればいいんだよ。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアでブロックの動かし方を伝え合うことで、考え方を広げ、教え合うことにもつながった。</li> <li>・全体発表では、分かりやすく説明するために、「まず」、「次に」といった言葉を使い、順序よく説明できるように意識させた。</li> </ul> <p>知識として習得したことを活用する。</p>	<p>●全体で</p> <p><b>問題②</b> いちごケーキが 8 こあります。チョコケーキが 6 こあります。かずのちがいは なんこですか。</p>  <p>まず、8個ブロックを置いて、次に6個数えて、残りのブロックをとります。だから…</p>
まとめる	<p><b>【まとめ・適用問題】</b></p> <p><b>【まとめ】</b> どちらがおおいかちがいをとめるときは、ひきざんをする。</p> <p>かずのちがいをとめるとき、ひき算を使えばいいんだ!</p> <p>くろいきんぎよが 4 ひきいます。あかいきんぎよが 7 ひきいます。かずのちがいは、なんびきですか。</p>	

## ② 3年生「重なりに目をつけて」【図を使って考える】(1/1時間)

<主張点>

- 導入で、1mものさしの重なる部分を最初は隠して提示することで、児童の関心を引き付け、意欲的に取り組めるようにする。
- 児童が数値を書き込んだり色を塗ったりして、自分の考えをかき表せるように、たっぴーシートに重なりを示したテープ図を記載しておく。さらに、そのたっぴーシートの図を指さしながら、立式の根拠をペアで説明させるようにする。
- 「重なりを最後に引く」方法を全員が理解できるようにするために、この方法は式を途中まで発表させ続きを全員に考えさせる。その際、図を用いて自分の言葉で説明させることで理解を深められるように、裏面にもテープ図を記載しておく。

過程	学 習 の 流 れ	
つかむ	<p><b>【問題提示】</b></p>  <p>重なりを最初は手で隠して見せることで、児童の意欲を高めるようにした。</p> <p>その手で持っている所があやしいです！</p>	<p><b>問題</b> 教室の入り口の高さを、1mものさしを使って測ります。高さは何cmでしょう。</p>  <p>めあて：重なりに目をつけて全体の長さを求めよう。</p>
<p style="background-color: #FFD700; padding: 2px;">テープ図を用いて、じっくりと考える。</p>		
もどめる	<p><b>【自力解決：自分で考える（たっぴーシート）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たっぴーシートにテープ図を記載しておき、児童が図を使って考えることができるよう工夫した。</li> </ul>  <p>重なっている所を最初に引いて、残りを足せばできそう。</p> <p>2本のテープを足して、最後に重なりを一つ引くと…。</p> 	
ふかめる	<p><b>【共同解決：ペアや全体で考えを出し合う】</b></p> <p>●ペア学習</p>  <p>ここからここまでが80cmですよね。そして、残りの100cmを足すから答えは…。</p> <p>どうして80cmだとわかるんですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テープ図を指さしながら自分の考えを説明することで、ペアに分かりやすく伝えることができた。</li> <li>・全体発表では、広めたい考えの式を途中まで発表させ、続きを考えさせたことで新たな解決方法を獲得できるようにした。</li> </ul>	<p>●全体で</p>  <p>ぼくは最初に、<math>100 + 100 = 200</math>をしました。</p> <p>ストップ！〇〇くんは、次にどう考えたでしょう。</p>  <p>最後にこの20cmを引いたってこと？</p> <p>続きを考えて、交流し合う様子</p>
まとめる	<p><b>【まとめ・適用問題】</b></p> <p style="background-color: #FFD700; padding: 2px;">知識として習得したことを活用する。</p> <p><b>【まとめ】</b> 重なりを引くと、全体の長さを求めることができる。</p> <p>重なりがあるときには、重なりを引いて考えるといいんだ。</p> <p>110cmのテープと90cmのテープをつなぎます。つなぎ目は20cmにします。全体の長さは何cmですか。</p>	